

Medi-Way 医療通訳者紹介 Vol.21 ベトナム語担当 ゆんさん

◆なぜ医療通訳者になった？

ベトナムから来日したばかりの頃は、言葉の壁や文化の違いもあって家に引きこもり気味だったのですが、出産を機に子供のためにも外に出ていこうと決意。たくさんの人に支えてもらった実体験から、私と同じように言葉や文化の壁で困っているベトナム人の助けになりたいと思い、役所や入管の手続き、保育所や学校への相談など、さまざまな通訳に関わってきました。

そんな中、3年前に娘が足の手術を受けることになった時に、症状の説明、手術の内容、術後の注意事項など、細かい説明が理解できず、とても悔しい気持ちになったことをきっかけに勉強を始め、その後、医療通訳に携わるようになりました。



◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

医療通訳を始めてまだ日が浅いですが、ベトナムの皆さんの助けになっていると感じられることが嬉しいです。また、通訳後に「ありがとう」のひと言を掛けてもらったときは、より嬉しく感じます。仕事としての在り方も、もともと一人で通訳・翻訳の仕事やボランティアをやっていたので、今のチーム全体で対応していく感じがとても新鮮です。

◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

自分の通訳を振り返ったり、他の人が対応したものを聞かせてもらったりすることで、理解が浅い部分をしっかりと確認するようにしています。医療通訳としての専門性から正確さはもちろんのこと、感じ方のニュアンスなどは文化や習慣による影響も大きいので、その違いをわかりやすく伝えられる架け橋の役割を果たせるように心掛けています。

『チームの一員として』



私たち Medi-Way は、東和エンジニアリング 関西支社のワンフロアにあります。社員たちは日々忙しく、普段はエレベーターで乗り合わせても挨拶程度で、残念ながらゆっくり雑談をする機会もなかなかありません。

そのような中で、とても感激したことがありました。ちょうど先日、Medi-Way で新しい契約が決まり、活躍の場が増えると喜んでいたり、関西支社のみんなが口揃えて「おめでとう！」と自分のことのように喜んでくれ、なんとお祝いで届けてくれました😊

「オンライン医療通訳」という全く異なる業務をしている私たちですが、社内から「仲間」としてエールをもらい、今回改めて「同じチームの一員なんだ」という思いを強くしました。オンラインでつながる多くのご利用者様とも、私たち Medi-Way は同じチームであるという意識を持って、今後もこの気持ちを大切にしていきたいと思った出来事でした。



今月のピックアップ



「ヤングケアラー支援体制強化事業」

「ヤングケアラー」とは、家族の介護やケア、身の回りの世話を担う18歳未満の子どものことです。国では各自治体に予算化して、ヤングケアラーを支援する体制を強化する事業を進めています。

以前、この Medi-Way だよりでもご紹介した「コーダ あいのうた」の映画であったように、親世代よりも先に言葉を習得した子どもたちが、医療現場で家族の通訳を行うというケースは今もよく見られます。映画の中で主人公は「言にくいこと」を「言わずに済ましてしまう」「中身を変えて通訳してしまう」、そんなことがありましたよね。また、日常会話には問題ない子どもでも、病気の内容が難しい場合、彼らに医療の専門用語を通訳しなさいというのは無理な話です。

このヤングケアラー支援事業の内容には、今年度から外国語対応が必要な家庭への通訳派遣支援なども盛り込まれました。大切な家族の、大切な健康に関する通訳で、子どもたちがつらい思いをしなくてもいいように、私たちもこの支援事業の一端を担えたら、と強く思います。

